

伊那市環境報告書

(平成31年度環境調査実績)

伊那市市民生活部生活環境課

1 自然環境の保全

(1) 自然保護

ア 自然公園

自然公園法及び長野県立自然公園条例に基づき、地域内での一部行為について、許可又は届出が必要となります。

区域	届出件数
南アルプス国立公園	10件
中央アルプス県立公園	1件
三峰川水系県立公園	11件

イ 外来植物駆除事業

アレチウリ駆除（市内一斉駆除日を設定し実施）

ビロードモウズイカ駆除（高遠町全域をモデル地区として実施）

三峰川上流に繁茂するブツレアの駆除

ウ 新山「トンボの楽園」保護・整備活動

環境省が行う、自然環境保全基礎調査の指標昆虫の一つであるハッチョウトンボを始め、多くのトンボが生息する「トンボの楽園」の保護や整備を地元保護育成会と協働して実施しました。

内容
・ 観察会の実施
・ 環境整備（年 2回） 草刈等

(2) 環境美化

河川一斉清掃及び空き缶等回収

○河川一斉清掃

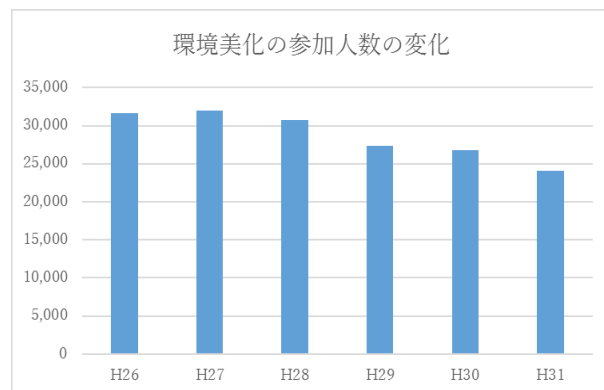
11月 10日、 3月 8日

○空き缶等回収

6月 16日

【総実績】

・ 参加人員	24,135人
・ 可燃ごみ	1,682袋
・ 不燃ごみ	841袋
・ その他	88袋



2 生活環境の保全

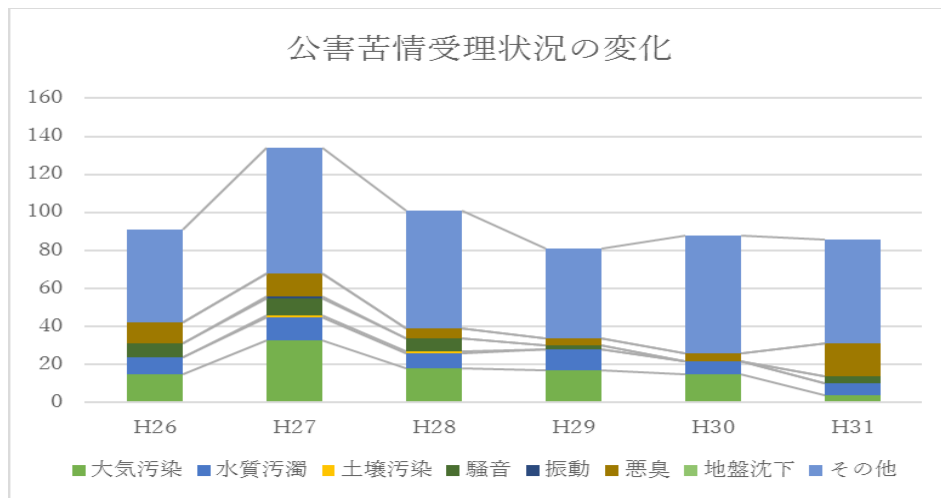
(1) 公害苦情受理状況

公害苦情の受付件数は、年度により増減はありますが、若干、減少傾向で推移しています。

被害の種類は、実際に健康や財産に被害を受けたものは少なく、感覚心理的な公害苦情が多くなっています。

○件数

大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	悪臭	地盤沈下	その他	年計
4	6	0	4	0	17	0	55	86



※種別内訳

種別	内容
大気汚染	廃棄物の野焼き、不適正な焼却炉の使用など
水質汚濁	交通事故によるガソリン流出、灯油等の河川流出など
騒音	近隣工場や生活音による騒音など
悪臭	廃棄物の焼却、堆肥の臭いなど
その他	ペットの不適正な飼育、空き地の管理など

○用途地域別

都市計画用途地域								都市計画区域外	合計
住居	近隣商業	商業	準工業	工業	工業専用	無指定	計		
25	0	2	2	3	0	54	86	0	86

○種類別

健康	財産	動植物	感覚的・心理的	その他	合計

0	0	0	86	0	86
---	---	---	----	---	----

○野外焼却苦情受付月別件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1	1	3	4	3	2	1	0	2	0	0	0	17

(2) 自動車交通騒音調査

騒音規制法第 18 条第 1 項の規定に基づき、伊那市内の自動車騒音の状況を常時監視するため、「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」（平成 12 年 5 月 15 日付け環大二第 51 号、環大企第 101 号 環境庁大気保全局長通知 以下、「評価マニュアル」という。）及び「騒音規制法第 18 条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について」（平成 17 年 6 月 29 日付け環管自第 050629002 号環境省環境管理局長通知）に基づき、伊那市内の主要幹線道路における様々な道路条件、沿道条件等を踏まえ、道路交通騒音の環境基準達成状況を戸別建物ごとに的確に評価することを目的として自動車騒音測定を行っています。

○騒音測定

測定路線・地区	戸数	環境基準		測定結果		基準適否	
		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
中央自動車道西宮線 (南箕輪村堺～伊那 IC)	27	55	55	45	44	適	適
一般国道 153 号 (沢渡信号～南箕輪村境)	352	66	60	47	41	適	適

均値・単位 dB)

(3) 河川水質検査

水質検査指定河川である天竜川、三峰川は天竜川上流河川事務所が水質検査を実施しているため、平成 27 年度から同様の検査は実施していません。

(4) 伊那市光化学オキシダント緊急時対策実施要領の運用

注意報等の発令はありませんでした。

(5) 微小粒子状物質 (PM2.5) 注意喚起情報発表に伴う広報

注意喚起情報発表はありませんでした。

(6) 水質事故の対応

オイルなどの流出事故が 6 件ありました。

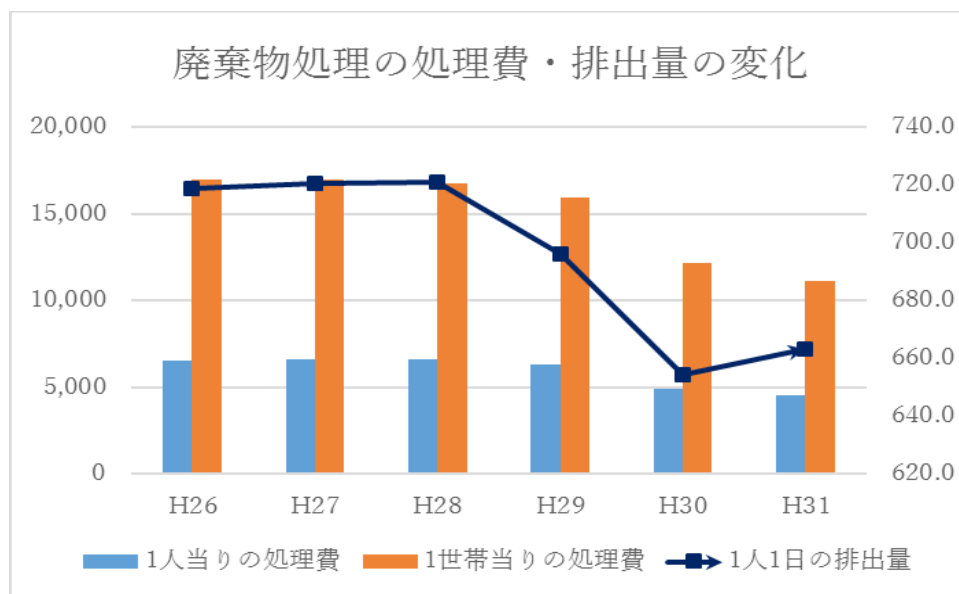
3 廃棄物処理

(1) 処理費用

人口 (R1.10.1)	世帯数	処理 費	処理 量	1 人当り 処理費	1 世帯当 り 処理費	1 人 1 日 排出量
67,896人	27,761世帯	310,389 千円	16,480t	4,572 円	11,181円	663.2g (前 年)654.3g

※上記の数字は、家庭系ごみと事業系ごみの合計数字です。

※家庭系ごみの 1 人 1 日あたりの排出量は、 499g です。



(参考) 廃棄物処理の処理費等算出根拠

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
人口 (人)	70,008	69,542	69,189	68,689	68,381	67,896
世帯数 (世帯)	26,899	27,081	27,263	27,337	27,560	27,761
処理費 (千円)	457,388	459,385	457,110	436,915	336,576	310,389
処理量 (t)	18,370	18,289	18,205	17,455	16,330	16,480

(2) 一般廃棄物の処理量 (t)

○可燃ごみ・不燃ごみの処理量

区分 種類	家庭系		事業系	その他	計 (自家処理は 除く)
	計画収集 家庭系指定 袋 直接合	直接搬入 (家庭系有 料)	直接搬入 (許可業者)	不法投棄・災 害等	
可燃ごみ	8,309.63	579.71	4,093.90	114.90	13,098.14
不燃ごみ (含む粗大ご み)	599.46	355.46	2.08	7.23	964.23
(内) 鉄	(215.15)				
(内) アルミ	(20.96)				
(内) 雑品	(7.28)				
計					14,062.37

○資源ごみ等の処理量

種類	H31 年度	参考	
		H30 年度	H30 からの伸び率 (%)
不燃ごみ (資源分)	243.39	223.93	8.69%
(内) 鉄	215.15	174.73	9.59%
(内) アルミ	20.96	18.85	5.01%

(内)雑品	7.28	4.75	-4.71%
資源プラスチック	685.67	775.25	-11.55%
古紙類	1,202.53	1,347.63	-10.77%
びん類	307.30	301.71	1.85%
スチール缶	28.29	29.99	-5.67%
アルミ缶	38.97	42.46	-8.22%
牛乳パック	3.80	3.95	-3.80%
ペットボトル	67.42	64.07	5.23%
廃食用油	2.22	6.27	-64.59%
衣類	52.96	51.89	2.06%
有害ごみ	23.14	23.70	-2.36%
その他	4.85	2.37	104.64%
計	2,660.54	2,873.22	-7.40%

○一般廃棄物の処理量（まとめ）

可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ等	合計
13,098.14	720.84	2,660.54	16,479.52

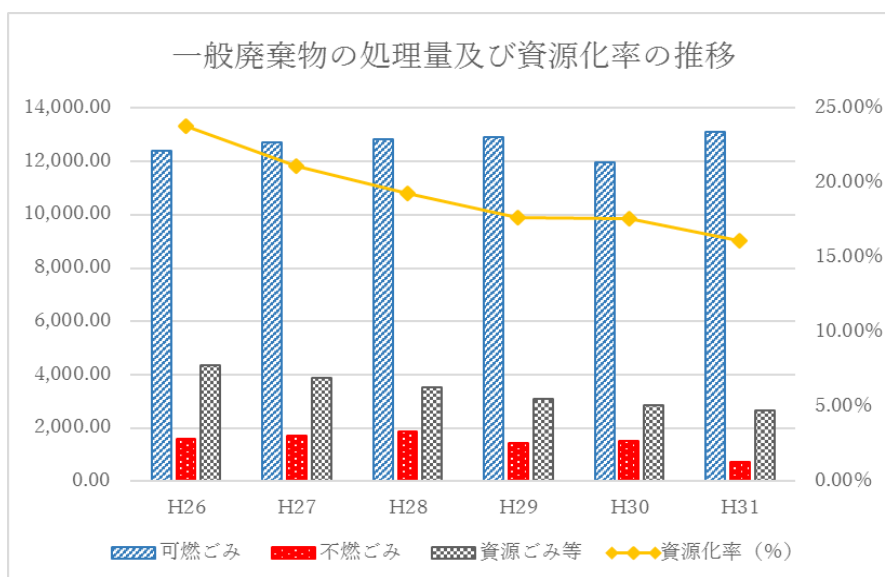
○資源化率

資源ごみの処理量 / 可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみ等の総処理

量

$$= 2,660.54 / 16,479.52$$

$$= 16.14\%$$



(3) 家庭から指定ごみ袋で排出されたごみの組成 (%)

可燃物 測定： 7、 10 の年 2回		不燃物 測定： 10月の年 1回	
資源化できるガラス	0.64	資源化できるガラス	9.83
資源化できる紙類	6.58	資源化できる紙類	0.06
資源化できるプラ	3.64	資源化できるプラ	2.13
資源化できる金属	0.04	資源化できる金属	2.69
厨芥類	42.14	布類	0.72
布類	14.74	ゴム・皮革・アルミ箔	3.15
ゴム・皮革・アルミ箔	1.61	木・竹等	0.33
木・竹等	4.30	その他の可燃	2.45
その他の可燃	26.20	不燃ごみ	13.77
不燃ごみ	0.11	小型家電	18.87
		プラと金属の複合	10.08
		金属・ガラス・陶磁器	35.92

(4) 回収事業

ごみの減量化等を図るため、衣類、使用済乾電池、廃食用油の回収を行いました。

○衣類

開催時期・会場			
6月 30日、 10月 27日に 9会場にて開催			
回収結果			
総数		52,960kg	
実績	リユース	古着として	30.00%
		ウエスとして	25.00%
	再生繊維としてリサイクル		25.00%
	廃棄		20.00%

○使用済乾電池蛍光管の回収

開催時期・会場	
11月 10日、 3月 8日 (河川一斉清掃に合わせて実施)	
回収結果	
23,140kg	

○廃食用油の回収

開催時期・会場	
2ヶ月に 1回	(市内一部のステーション)

(5) 補助制度

○ごみ収集ステーション設置補助事業補助金

件数	13 件	実績額	1,050千円
----	------	-----	---------

○生ごみ処理容器等購入補助金

件数	78 件 (78 台)	実績額	1,428千円
----	-----------------	-----	---------

※機器内訳：電気式 64 台・容器式 14 台

4 地球温暖化防止

(1) 伊那市環境審議会

伊那市環境基本計画に基づき、環境審議会を設置しました。

平成 31 年度は、審議会を 3 回開催し、環境基本計画の進捗状況の管理や水資源許可、第 2 次伊那市環境基本計画等を審議しました。

(2) 伊那市地球温暖化対策地域エコリーダー協議会

この協議会は、伊那市環境審議会の専門部会として設置され活動を行いました。平成 31 年度は、協議会を 2 回開催し、伊那市環境基本計画で掲げる目標を達成するために、市で実施する温暖化防止対策や環境教育に対して、意見・提案をいただきました。

(3) 再生可能エネルギーの普及推進

ア 熱利用（二酸化炭素排出抑制計画（2016(H28)-2025(R7) による））

設備	施設名	計画前	計画策定後進捗状況		
		設置	設置	目標 (R7)	達成率 (%)
ペレットストーブ	民間（補助件数）	54	37	100	37.0
	公共施設（公民館、学校）	160	64	130	49.2
	温泉施設	1	1	4	25.0
ペレットボイラー	保育園	6	2	8	25.0
	学校調理場	3	4	9	44.4
	民間（みぶの里）	1	0	10	0.0
薪ストーブ	農業用ハウス	3	3	20	15.0
	民間（補助件数）	324	125	200	62.5
太陽熱	民間（補助件数）	103	70	240	29.2

イ 補助制度

○住宅用太陽熱利用システム設置補助

件数	14 件	実績額	675 千円
----	------	-----	--------

(4) 経木の活用

地元産材の新たな活用や脱プラスチックへの取り組みとして、木を薄く削って作る「経木」を食材の包みや仕切り、敷物などへ活用する検討を始めました。

5 環境問題啓発・環境学習

(1) 環境啓発（伊那市環境展の開催）

伊那市環境展 2019は、「環境にやさしく住みよい伊那市を次世代に」をキーワードに、地球温暖化、自然エネルギー、地域の自然環境、ごみ処理、3Rなど私たちの生活に関わる身近な問題について情報を発信し、体験をとおして学び、解決のヒントを探る機会として開催しました。

国民運動「COOL CHOICE」を基軸とし、「きて・みて・えらぼう！・・・未来のために・・・」を開催テーマに掲げ、市内の各地域で活動するグループ、団体及び企業等の、様々な環境に関する取組・活動・製品の、発表やPRを通じ、環境やエコについて、楽しみながら、学んだり考えたりすることができる参加体験型のイベントとして開催しました。

○開催予定日時及び会場

日時：令和元年 10月 6日（日）

午前 10時から午後2時30分まで

会場：伊那市防災コミュニティセンターほか

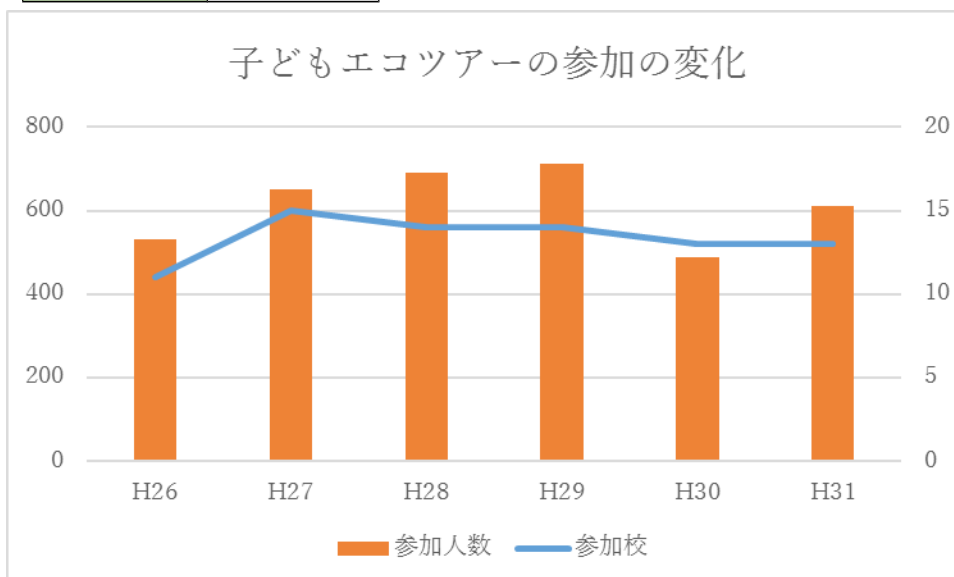


(2) 環境教育

ア 子どもエコツアーの実施

市内小学4年生の児童を対象に、環境への関心を高めることを目的としてごみ処理施設等の見学や林業体験等を実施しました。

実施回数	17回
参加校	13校
参加人数	610人



イ 環境教育用副読本

小学校4年生を対象とした環境教育用副読本「地球にやさしいきれいな伊那市」を作成し、4年生の児童に配布しました。各校において、環境教育の中で、活用していただきました。

ウ スターウォッチングの実施

星空の観察という身近な方法により、大気保全の重要性の認識や宇宙への関心を深めていただくことを目的として、プラネタリウム鑑賞と屋外での星空観察を行いました。

○開催日時及び会場

日時：令和元年9月 28日（土）

午後6時 30分から 午後9時まで

会場：長野県伊那文化会館・春日城址公園

○参加者数 84名

伊那市環境報告書（平成 31 年度環境調査実績）

令和 2 年 6 月作成

伊那市
〒 396-8617
長野県伊那市新田 3050 番地
市民生活部生活環境課環境政策係
TEL: 0265-78-4111 内線 :2211

FAX: 0265-74-1260
E-mail: sei@inacity.jp
